第２章　これまでの取組及び今後の課題

第１章では、八王子地域における小児医療の現状について、過去からの推移を含めて確認したが、本章では「検討会まとめ」をもとに、八王子地域の小児医療の一次医療から三次医療までの機能別取組状況を整理し、課題を把握していく。

１　八王子地域における一次医療（外来医療）

外来医療は、地域のプライマリ・ケアとして極めて重要な位置を占めるものであり、診療所、病院が各々その役割を分担し、実施している。

一次医療に対応する小児科を標榜する診療所は、八王子市に 88 箇所（平成 18 年 10 月 1 日現在）ある。

また、「検討会まとめ」によると、八王子地域における一次医療割合は診療所が 81.5%、一般病院が 9.8%、二つの中核病院が 4.0%、八王子小児病院が 4.7%となっている。

平成 15 年度以降の外来患者数の傾向を見ると、二つの中核病院の小児科の外来患者数は増加傾向にあるが、八王子小児病院における外来患者数は医師不足の影響もあり、減少傾向が続いている。

東京都保健医療計画では、一次医療圏として区市町村の地域を設定していることから、住民に密着した保健医療サービスは区市町村が中心となって提供していく必要がある。

【表５　外来患者数の推移】

区　　分		平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
東京医科大学八王子医療センター	延患者数	14,754	15,634	17,107	18,774	18,033
	１日当たり	55	58	63	69	67
東海大学八王子病院	延患者数	22,925	31,990	32,785	35,752	31,246
	１日当たり	84	119	121	133	115
八王子小児病院	延患者数	46,466	37,739	35,403	27,698	26,085
	１日当たり	158	128	120	94	89

※　二つの中核病院については、小児科の外来患者数

２　八王子地域における二次医療（入院医療）

八王子市内で小児科を標榜している病院は、二つの中核病院及び八王子小児病院の３箇所である。

こうした中で、八王子地域における小児の二次医療に対応している病院の割合は、「検討会まとめ」によると、二つの中核病院が 29.2%、八王子小児病院が 14.7%、それ以外の 56.1%は一般病院と有床診療所になっている。

平成 15 年度以降の入院患者数の傾向を見ると、二つの中核病院の小児科の入院患者数は増加傾向にあるが、三次医療を含めた八王子小児病院の入院患者数は減少傾向にある。

小児の専門病院である八王子小児病院が、これまで果たしてきた入院医療機能（三次医療を除く）を、八王子小児病院移転後に担う医療機関としては、総合的診療基盤に支えられた小児科を運営している二つの中核病院を想定することが最も適当である。

【表６　入院患者数の推移】

区　　分		平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
東京医科大学八王子医療センター	延患者数	3,947	3,376	4,789	4,491	3,520
	１日当たり	11	9	13	12	10
東海大学八王子病院	延患者数	4,802	6,350	7,432	7,973	5,714
	１日当たり	13	17	20	22	16
八王子小児病院	延患者数	28,829	26,313	26,892	25,246	25,078
	１日当たり	79	72	74	69	69

※　二つの中核病院については、小児科の入院患者数

※　八王子小児病院については、ＮＩＣＵ等三次医療分を含む。

３　八王子地域における三次医療

現在、八王子地域において、小児の三次医療に対応しているのは、主として八王子小児病院であり、新生児医療、心臓血管外科医療、各種専門医療など三次医療的な入院の割合が高い。特に新生児医療については、ＮＩＣＵ9床、ＧＣＵ24床を備えるとともに、新生児ドクターカーを配備して、多摩地域における新生児医療を支えてきた。

三次医療は、一次及び二次の保健医療体制との連携の下に、特殊な医療の提供を確保するとともに、東京都全域での対応が必要な保健医療サービスを提供していくものであることから、八王子小児病院移転後も東京都がその責任の下で体制整備していく必要がある。

【表７　八王子小児病院におけるＮＩＣＵの稼働状況】

区　　分	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
延患者数	3,270	3,279	3,271	3,261	3,281
１日当たり	9.0	9.0	9.0	8.9	9.0

【表８　八王子小児病院における新生児ドクターカーの出動回数】

区　　分	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
延患者数	552	494	523	520	480
１日当たり	1.5	1.4	1.4	1.4	1.3

４　八王子地域における救急医療

小児医療は、多くの労力を必要とすること、リスクが高いこと、採算性が低いことなどから、小児科医の不足が顕著となる一方で、核家族と共働き世帯の増加などから、休日・夜間の小児医療の需要は依然として高い。

小児救急医療について、八王子市においては、平成15年10月より、医師会、二つの中核病院、八王子市との連携の下、小児準夜救急診療事業（東京都事業名：小児初期救急平日夜間診療事業。以下、同じ。）と小児休日・全夜間救急医療事業（東京都事業名：休日・全夜間診療事業（小児）。以下、同じ。）を開始し体制整備を図り、着実に取り組んできた。

また、八王子小児病院は、市の本事業には参加していないが、東京都の指定二次救急医療機関として救急医療に取り組んでいる。医師不足の問題もあり、平成18年度以降の救急患者数は、平成17年度以前と比較して減少しているものの、地域の小児救急医療には、大きな役割を果たしている。

なお、小児救急医療では、大半が初期の患者であるため、本来入院医療を扱う二次救急医療機関である二つの中核病院や八王子小児病院にも、多くの初期患者が受診しているのが実態である。

【表９　小児準夜救急診療事業における受診者数の推移】

区　　分	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
八王子市 夜間救急診療所	3,514	3,458	3,389	3,077

※　小児準夜救急診療事業は、八王子市との協定に基づき、八王子市夜間救急診療所において市医師会が実施している

【表１０　小児休日・全夜間救急医療事業における外来患者数の推移】

区　　分	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
東京医科大学 八王子医療センター	3,733	4,737	5,554	5,453
東海大学八王子病院	9,288	9,572	9,851	8,897

※　小児休日・全夜間救急医療事業は、八王子市との協定に基づき、二つの中核病院が輪番で実施している

【表１１　八王子小児病院における救急患者数の推移】

区　　分		平成 15 年度		平成 16 年度		平成 17 年度		平成 18 年度		平成 19 年度	
入院	延患者数	966	6.6%	909	7.5%	808	6.7%	586	7.7%	787	10.1%
	1 日 当たり	3		2		2		2		2	
外来	延患者数	13,744	93.4%	11,246	92.5%	11,238	93.3%	7,004	92.3%	6,992	89.9%
	1 日 当たり	38		31		31		19		19	
計	延患者数	14,710	100%	12,155	100%	12,046	100%	7,590	100%	7,779	100%
	1 日 当たり	41		33		33		21		21	

※　救急患者数は、救急車による搬送、平日及び土曜日の時間外、全休日における患者数